

<b>海外短期プログラム参加者 報告書</b>		※ 帰国後 15 日以内に提出してください。 ※ 提出された情報は、海外留学HPに掲載します。(色のついた部分は掲載しません)
留学先大学名	中国人民大学 (国名: 中国 )	
参加プログラム名	サマースクール	
プログラム期間	2017 年 7 月 ~ 2017 年 7 月	
学部/学府・年次	生物資源環境科学府	2 年次
参加に要した費用	協定に基づく授業料免除の有無 → <input checked="" type="radio"/> 有 無	
	「有」の場合、免除額を記入してください( 10000RMB )	
	航空運賃はいくらかかりましたか? ( 約 23000 円 )	
	その他相手先大学に納入した費用を具体的に記入してください(例:教材費、宿舎費、オプションの見学旅行など) 申請料:800RMB 宿舎費:約 1300RMB	
このプログラムを選んだ理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバスを見たところ自分の研究に利用できそうな講義があったこと。</li> <li>・授業料が免除になる可能性があったこと。</li> <li>・福岡—北京の往復航空券がそれほど高くないこと。</li> </ul>	
進路の予定	1. 就職 ( 時期: <input checked="" type="radio"/> 4 月から / ( ) 月から) 2. 大学院進学 3. その他(具体的に: )	

## 1. 参加プログラムと大学について

プログラム(カリキュラム等)の概要について	<p>•Introduction to spatial statistics この講義は空間統計学を R を用いて学ぶというものであった。半分は講義形式、半分は実際に R を使って分析の練習をするというスタイルであった。講義はとてもわかりやすく、練習においても R コードを提供してくれたのでとても親切だった。以下は各回講義の概要。</p> <p>Module I, R language platform and Spatial Task View introduction Module II, the history of spatial data analysis / spatial statistics, SPDEP package Module III, spatial weights and how to generate them, SPDEP package Module IV, global spatial autocorrelation and its measurement and hypothesis testing, SPDEP package Module V, local spatial autocorrelation and its measurement and hypothesis testing, Moran scatterplot, SPDEP package Module VI, Spatial Autoregressive Models – the mechanisms, model selection and estimation of both the lab model and error mode, SPDEP Package Module VII, Introduction to Geographic Weighted Regression Analysis and Geographically Weighted Analysis, SPGWR Package</p> <p>•Method of Primary Data Collection and Analysis in Food, Environmental and Resource Economics この講義は CVM や Choice Experiment の例を中心に、調査票のデザイン、データコレクションの方法、それらの注意点を学んだ。この講義は論文を読みながら、その研究の良い点、悪い点を説明していくというものだった。最終講義においては自分で調査票をつくり、調査を行い、プレゼンするというものだった。</p>
主催大学のサポート体制について (語学面／勉学面／精神面／住居・生活面など)	<p>まず、講義はすべて英語で行われた。私が受講した講義は中国人の先生であったが、2人ともアメリカの大学の教授ということもあり、とても理解しやすい英語だった。講義は生徒が理解しやすいようにデザインされており、受講して本当によかった。</p> <p>Wifi は 10G は大学から無料で支給された。それ以上使う場合は追加で購入する。1G あたり 1～2RMB 程度。</p> <p>バディ制度があり、人民大学の中国人学生が一人ついてくれたのでわからないことがあれば質問することができる。Wechat というアプリをダウンロードしておくことと連絡するのに便利であろう。Line は規制されているため使用は不便である。</p> <p>食事は大体は大学内の食堂で済ませていたが、3つほどある学生食堂に加えていくつかレストランのような場所もあるので飽きることはない。</p>

プログラムおよび大学に対する感想	私は受けた講義があったということがこのプログラムに申請した一番の理由であった。受講した2つの講義はとてもわかりやすく、これからの研究生活に直接的に役に立つものであった。生活環境もほとんど不便はなく、かかった費用もそれほど高くないことを考えるととても充実したサマースクールであった。
同じプログラムを希望する人たちへのアドバイス	人民大学のサマースクールは政治学、社会学、経済学、などを中心に様々な講義を提供していた。私が受講したのは2つだけであったが、とても質の高い講義であったと思う。自分の研究に使用するためという理由で受講するならばとても効果の高いプログラムであると思う。とくに興味のある講義がない場合でも、人民大学の学生や他国からの学生と一緒に学ぶことはよい経験になるだろう。
<b>2. 事前手続き(ビザ申請などが必要であった場合)</b>	
ビザの種類	X2ビザ
ビザ申請先	中国福岡総領事館
必要書類、手続き方法	パスポート、査証申請表、証明写真、入学許可証
手続きに要した時間	約1週間
その他必要な事前手続きがあれば記入してください	
<b>3. 日常生活</b>	
日常生活の概要、感想	特に北京においては電子マネー決済が発達している。食事も含め、買い物、シェアサイクルまで電子マネーを使用するので Wechatpay もしくは Alipay を使うと便利である。
生活費(全期間)及びおおよその内訳	寮費:約2万5千円 食費:約2万円 その他雑費:1万円

日本から持参した方がよいもの（PCや変圧器等の要不要も）	PC も含めほとんどの電化製品は変圧器なしで使えると思います。Line,Facebook,Twitterなどは中国内では規制されているので、どうしても必要ならば事前にVPNの設定をしていくと便利。コーヒーはあまり美味しくないので毎日飲む人は持っていくとよい。
日常生活（治安対策を含め）に関するアドバイス	治安は、日本と同程度に気をつけておけば大丈夫。スリは多い。
お金の管理や受け取り（銀行口座開設や海外送金、またはクレジットカード持参など）について、貴方の留学先国で最も適当な方法を教えてください。	私は日本円を現金でもっていき、両替後、中国の銀行口座で保管していた。
<b>4. 宿舎、生活環境</b>	
宿舎の種類（○印をつける）	・ <input checked="" type="radio"/> 大学の寮 ・ホテル・その他（ ）
立地	住居であるが、留学生用の寮に滞在した。留学生用の寮は2種類あるが、私が滞在したのは価格の安い方の寮で、1日あたり45RMBであった。2人部屋である。私は人民大学の学部で勉強している日本人留学生と相部屋であった。普段は政府奨学金を受給している留学生の寮らしい。トイレとシャワーは共用であった。部屋、トイレ、シャワールームは清潔で、何も問題はなかった。部屋にはエアコンが完備されている。電気代は必要なかった。
伝えたい地域情報、生活情報	
<b>5. その他の特記事項</b>	